



2008/09 WEEKLY BULLETIN

国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区 B

市原ロータリークラブ会報



第 2181 回例会 2008 年 8 月 27 日(水) SAA / 澤井会員 会報担当 / 泉水会員

例会場 五井グランドホテル 市原市五井 5584 - 1 事務局 TEL 0438-38-3535

点 鐘 市原 RC 会長 藤谷泰弘

ソング それでこそロータリー

お客様

市原中央高校インターアクト顧問志村先生と PJ 交換生徒 5 名

会長挨拶 市原 RC 会長 藤谷泰弘



みなさんこんにちは。

市原中央高校 インターアクト顧問教師の志村先生そして PJ への交換学生の皆さん、おいでくださりありがとうございます。学生の皆さんには、後ほど帰国報告を一人ずつ述べていただきます。よろしく願います。この学生交換事業は 8 月 17 日出発。8 月 24 日帰国の 8 日間の日程で行われました。学校と保護者の方の理解と協力を頂き成功させることが出来ました。詳しくは後ほど伊藤国際奉仕委員長から、また学生から、お話があると思いますが、ひとつだけ私が感じたことを申し上げれば、それは出発時、5 人のリーダーである中島 I A 会長の顔は、こわばってました。責任感から当然のことと思います。帰国の空港ではニコニコじつに良い表情をしていました。5 人の学生さん皆そうでした。この事業が成功したと実感できる瞬間でした。

それから、8 月 24 日の午後に、平和園の手作りコンサートを初めて観ました。平和園はご承知のように児童養護施設です。児童養護施設は親のいない子や、親に問題があり一緒に暮らすことが好ましくない、そういう子達を護る施設です。つまり、ここの子供たちは、この施設に入る前に、沢山の涙を流したといえます。コンサートは素晴らしかったです。曇りや影は感じませんでした。目的を持ち、仲間との連帯を肌で感じ、自立への力を身に付けるであろうこの子達に、エネルギーを貰ってきま

した。来年は、8 月 23 日に行うそうです。百聞は一見にしかず。是非ご覧になることをお勧めいたします。9 月が新世代月間ですが市原は先取りが好きなようです。

幹事報告 幹事 小川長二

* ロータリー情報研究会 9/20(土)

* 地区ゴルフ大会 10/3(金)、申込は斎藤栄志会員へ。

* 職業奉仕特別セミナー-9/25(木)、斎藤パストガバナーが講演します。

委員会報告

川島例会運営小委員長

9 月例会プログラムの紹介 9/3 大高和郎様(元成東町長)

9/24 行方健司様(NTT 東日本千葉支店長)

小池社会奉仕小委員長

8/24 児童養護施設 平和園の「手づくりコンサート」観覧の御礼。

卓話 PJ 交換学生による帰国スピーチ



中島 遥さん

3 月 24 日に我々インターアクトクラブ 5 名は無事帰国を果すことができました。17 日に出発し、期待と不安とでドキドキとしながら現地到着まで過ごしていましたが、クアラルンプール空港について慣れない海外に動揺を隠せずにいた私を温かく歓迎して下さったホストファミリーの皆さんの笑顔を見た瞬間にもよもやとした不安も消え、「1 週間楽しめそうだな」という安心へと変わりました。マレーシアでの生活は一日一日がとて濃く、新しい発見を繰り返す毎日でした。これまで私が出会った事のない習慣、文化、建築物、食べ物、人ばかりでした。その一方でトイレが洋式の他に和式もあるという、ささいな日本との共通点もありました。

私の中で一番感銘を受けた事は、多種多様な教建築物

でした。イスラム教のモスクやインド式のお寺、教会を滞在中に見ることができ、色々な様式を持つ文化がマレーシアでは混在しているのを身をもって感じました。特にモスク見学の際に、建物内では女性は肌を見せてはいけないことから、全身を隠すカッパのような服を着て見学させて頂き、その時だけイスラム教徒になった気分がしました。

また、関心を抱いた事はベジタリアンの食生活です。欧米では珍しくないようなのですが、私のホームステイの家では、皆ベジタリアンで、野菜中心の生活をしていました。肉のようでそうでない物を食べたりと、日本では考えられない食生活を体験しました。

この他にも景観の素晴らしさや人々の温かさなど派遣を通して感じたことは話しきれないほどあります。このプロジェクトに参加して本当に良かったと心から思えました。ここで向上された英語力を勉強へ、さらにここで培った経験を将来へ活かしていきたいと思います。ロータリーの皆さん、先生方に感謝しています。



古堅 理恵さん

こんにちは。Mr.Wongさんの家に home stay させていただいていた古堅です。まず、この1週間のマレーシア研修に参加させていただき本当にありがとうございました。とても素晴らしい濃い毎日を送ることができました。初めのうちは host family と仲良くなれるか、現地でちゃんとやっていけるかなど不安なこともたくさんありましたが、みんな親切でそんな不安なんてすぐなくなりました。また、目標の一つであった異文化理解も完璧とまでは言えませんが、達成できたと思います。まず、現地について驚いたのは、たくさんの人種の人たちが共存しているということです。その多くは、マレーシア人、インド人、中国人です。多様な人種の人々がマレーシアで暮らしているということは、行く前から知っていましたが、想像を超えるほどの中国人とインド人の人々がマレーシアで生活していました。また Chinese town にはマレーシア、インド、中国の礼拝所や寺が存在するほど、

中国文化とインド文化がマレーシアには染みついています。

マレーシアでの生活初日には、city を現地のロータリアンの方々が案内してくださいました。世界でも有名なツインタワーやクアラルンプールにあるマレーシアの博物館をみてまわりました。またマレーシアの芸術文化であるパティックに挑戦しました。パティックアーティストの方にペイントの仕方を教えてもらいみんなで動物や建物など、色とりどりのきれいな絵をつくりました。またマレーシアを訪れたときにパティックを楽しみたいと思っています。他にも、芸術文化だけでなく食文化についてもたくさんを学びました。マレーシアの食べ物はおいしいものばかりで、特にフルーツが多く種類があり、初めて食べたものも多かったのですが、どれもとてもおいしかったです。言語の面では、ほとんどのマレーシアに住んでいる方がマレー語と英語と中国語の三ヶ国を話すことができると言っていました。1週間という短い期間ではありましたがマレーシアが持っているたくさんの文化を吸収することができました。初めての経験ばかりで戸惑う場面もありましたが、マレーシアでの生活をとても楽しく過ごすことができました。それは、先輩や友達、そしてロータリーの方々の支援のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



朴璿峨(パクノア)さん

僕のマレーシアでの感想を言でまとめると、マレーシアは、とてもいいところです。ちょうど2週間前のこの場で皆さんの前で僕は国際社会がどうこうだなどと生意気なことを平気で語っていましたが、マレーシアについて、そのようなことは正直無駄だと思いました。そして一週間の日程の間、日本に帰ってこの場でまたスピーチをしなくてはならないということなどまったく忘れていました。その結果こんなまとまりのないスピーチを皆さんにお聞かせしているわけなのですが、

しかし、ただ一週間遊び呆けただけではありませんでした。マレーシアにいる一週間の間、長年忘れかけていたあることを再発見しました。それは、他の国同士の人が集まり会話を交えるということ、一見何気ないことに思えるこの単純な行動が一番の国際交流であり、国際理解に繋がるという事実です。話す、というごくふつうの日常生活の一部が、他国間の二人をつなげるにおいて、資料を読みあさるより、立派な博物館などを訪れるよりはるかに有効なのです。マレーシアの人たちも考えてみれば言葉が日本と違うだけで、結局は同じ人間なのです。通じないわけがありません。もちろんそのためには英語も流暢でなければなりませんし、その国の背景などをある程度は事前に知っておく必要があります。しかし最も重要な事実、そのような、機械的、技術的な面よりも、お互い人間的な信頼を築く必要があるということです。

個人的な見解では、マレーシアはとても欧米文化に近いと感じました。変な意味、家に帰ったような気さえるほど落ち着く環境でした。僕にとってはとても過ごしやすい環境だったのですが、他の四人はどうだったかわかりません。しかし一つ確かなことは、僕たち市原中央生徒五人はとても良い時間を過ごすことができました。日本ロータリークラブの皆さん、マレーシアロータリークラブの皆さん、そして協力して下さった皆さんともありがとうございました。



佐藤 裕太さん

マレーシアから帰って3日経ちました。まだ興奮冷めやらぬ状況です。今回マレーシアに行って他の国の人々との付き合い方、英語との関わり方への考えが変わりました。僕は外国人としゃべる時、何となくですが、形式ばった言い方しかできないんです。しかしこの1週間色々な人と出会い、話すことによって何か吹っ切れたのでしょうか、形式ばらずに話すことができたように思います。ああそうだ、これが本当の会話ってやつなんだなと思いました。確かに遠慮は人と生活していく上で絶対必要ではありますが、本当に伝えたいこと、やりたい

ことまで遠慮という名を使って言わなかったら駄目なんだと気づきました。本当に行って良かったです。そして英語についてですが、現実を思い知らされました。もっと勉強しなくてはいけないと心から思いました。マレーシアでの1週間を一言で言うと、濃いという言葉です。市内観光やボウリング大会や象に乗ったり、毎日の食事、会話もそうです。生活の1コマ1コマが面白くて、1週間が短かったです。またこういう機会があれば参加したいです。



露崎 千晴さん

こんにちは。露崎千晴です。今回は市原ロータリークラブの皆様のご好意により、マレーシアへの派遣研修に参加させて頂きどうもありがとうございました。

8月17日出発当日は朝早い時間にもかかわらず、ロータリークラブの皆様をはじめ先生方や保護者に見送られ引率者なしの私達生徒5人で少し不安ながら出発しました。しかし空港に着くとマレーシアのロータリークラブの方々が迎えにきて下さいました。みんなとても良い人ですごく安心しました。それから7日間、市内観光、ショッピング、例会出席、エレファントサンクチュアリーに行くなど、とても充実した毎日が送れました。

日本と大きく違うなと思った点は、マレー、中国、インド、他様々な文化が共存していた所でした。イスラム教やヒンディー教のモスクや、仏教のお寺、そしてキリスト教の教会などいろいろな宗教とマレー発祥の地ともいわれるチャイナタウンなど、本当にばらばらな文化、人種の人々がお互いを尊重しあい、その上にマレーシアという国が成り立っているんだなと感動しました。

私が一番良かったと思うのはホストファミリーや、現地のロータリーの人達と交流できたことでした。毎日本当にお世話になり、言葉だけでは伝えられない素晴らしい体験になりました。この体験は将来、私の夢のためにも考えを変える大きな出来事になったと思います。これからも勉強にインターアクトクラブの活動も頑張りたいと思います。ありがとうございました。

ニコニコ・ソーリーボックス

常泉会員

ご協力をお願いした「健康講演会」予定数を超過する満員の盛況でした。健康志向の高まりを実感しました。ありがとうございました。

小池社会奉仕小委員長

8月24日、平和園の手作りコンサートに大勢の会員と家族の皆様が出席され素晴らしいコンサートをご覧頂き誠にありがとうございました。

始関会員

会員有志の方に販頒しました、前日経千葉支局長 小松 潔著「カラヤンと日本人」の代金一部をニコニコ BOX に寄付致します。

三宅会員

国際奉仕委員でありながら成田へ迎えに行けませんので。ニコニコに参加いたしました。

出席報告

前々回確定 73.5% 本日出席者 40 名
本日欠席者 9 名 本日出席率 81.6%

コラム・ロータリー

今年のマレーシア交換学生

8月24日、マレーシア交換学生5名が元気に帰国した。

今回は、市原中央高校生からの初の派遣だったが学生達の帰国報告は「異文化が共存する国の印象」や「この経験を機にもっと勉強したいとの意欲の表明」など、今までになく充実したものであった。全員が国際舞台での活動を目指す「英語科」の学生だけに、外国での体験を吸収しようという貪欲さが伝わってくる。この体験がきっと彼らの将来に役にたつだろう。

今年は、PJとの学生交換が本来の意義に立ち返った記念すべき「回帰初年度」だと言えよう。

巣立ち行く若い学生達にエールを送りたい。

(浜田国義)